

スピーカー略歴

★山崎 祥之氏

バルチザン 代表

現職：

バルチザン 代表

サニーサイドアップ社長室コミュニケーション戦略プロデューサー

主な経歴：

プランナー、コピーライターを経て、93年(株)サニーサイドアップにPRプランナーとして参加。同社のゲリラ的な話題づくりや、前園真聖、中田英寿が所属アスリートのイメージ戦略の中核を担い、選手メディアの成功例となった「nakata.net」や02日韓ワールドカップのホスピタリティセンター「nakata.net cafe」、中田を東ハトのブランド再生の象徴として執行役員に就任させるプロジェクト等に参加。

03年、コミュニケーション戦略構築および実施を主とする partizan (バルチザン) を設立。スポーツではサニーサイドアップとの連携の他、日本プロ野球選手会を2000年よりサポート、選手の地位の向上や、04年の近鉄とオリックスの合併に端を発する球界再編問題時の古田敦也選手会長を軸とする球団削減や1リーグ化に異を唱える世論喚起や、ストライキを経て、選手会が球界発展の一翼を担う現在までをサポート。現在も省庁、自治体のアドバイザーを歴任する中で、地域浮揚プロジェクトとスポーツを繋げることも多く、沖縄では内閣府沖縄総合事務局とともに沖縄スポーツ振興プロジェクトに関わる。17年末、PR的発想を誰でも使える道具にというコンセプトで「人を振り向かせるさわぎのおこしかた」(東邦出版)を刊行し、「伝えるを伝えるに変える」知恵を伝える講演活動を展開。

★次原 悦子氏

現職：

株式会社サニーサイドアップ 代表取締役社長

主な経歴：

1985年、高校在学中に母親と共にPR会社サニーサイドアップを創業。

2008年大阪証券取引所へラクレスに上場(現・東京証券取引所JASDAQ)。

2018年 東京証券取引所2部に上場

起業以来、PRの秘める無限の可能性に着目。従来型のオーソドックスな手法を逸脱した、世の中を騒がす仕掛けるPRを展開。スポーツでは、91年のトライアスロン選手のPRを契機に、PR的発想とスポーツマネジメントを融合させ、以降、前園真聖、中田英寿、北島康介、為末大、杉山愛、上田桃子などのトップアスリートを次々と世に送り出すとともに、欧米的な手法のマネジメントが根付かなかった日本においてスポーツビジネス手法のスタンダードを築いたとされる。その集大成としての、早稲田大学大学院スポーツ科学科の修士論文をまとめた「NAKATA ビジネス」(講談社)はスポーツマネジメントビジネスのテキストと呼ばれる。

現在もスポーツマーケティングを自社の大きな武器の一つとして捉えつつ「人々を動かす『PR』の発想が原点」という軸は変わらず、来る2020年に向け、またその先の社会をポジティブに創るべく新たなビジネスチャンスを探求して奔走する日々を送る。

<近年の主なアワード>

●2014年

Great Place to Work®が発表する日本の「働きがいのある会社」ランキングにて3位に選出

●2015年

「東京都スポーツ推進企業」に認定

●2016年

「GLOBAL TOP 250 PR AGENCY RANKING 2016」世界19位(日本のPR会社最上位)

「PRWeek Asia Best Places to Work 2016」(働きやすい企業の世界指標)ミドルエージェンシー部門において入賞。

「スティービー®国際賞 (Stevie® Awards 2016 International Business Awards)」のPR エージェンシー・オブ・ザ・イヤー (中国・日本・韓国) 部門でブロンズを受賞(ビジネス界のアカデミー賞と称される)

「スティービー®国際賞 (Stevie® Awards 2016 International Business Awards)」の「女性ビジネス賞」で金賞を受賞